

平成16年度 鳥取県中小企業団体青年中央会 通常総会・親睦会報告

平成16年7月23日(金) ホテルサンルート米子において、第30回県総会が開催された。開催に伴い、1年間の任期を終えた市位県会長より「昨年の7/23同じ日に県会長を承認いただき、たくさんの方々には様々な場面で御協力いただき、1年間の任期を無事務めさせていただき、安心・安堵の気持ちで一杯です。」と挨拶があり、その後、30周年事業成功の事、皆生トリアスロンの事等、様々な思いを述べられました。

そして、通常総会議案審議が行われ、各議案が承認され、次年度県会長及び役員が紹介され、県会長には平野裕章東部直前会長が選ばれ、県会長を支える新役員として西部からは、市位直前県会長の他副会長1名、理事3名、監事1名の会員が承認され、新年度の県出向役員が決まり、平野県会長より「大役に身が引き締まる思いですが、30周年の節目の年にとても名誉な事であり、飛躍して頑張りたいと思います。」と挨拶され、無事総会が閉会された。

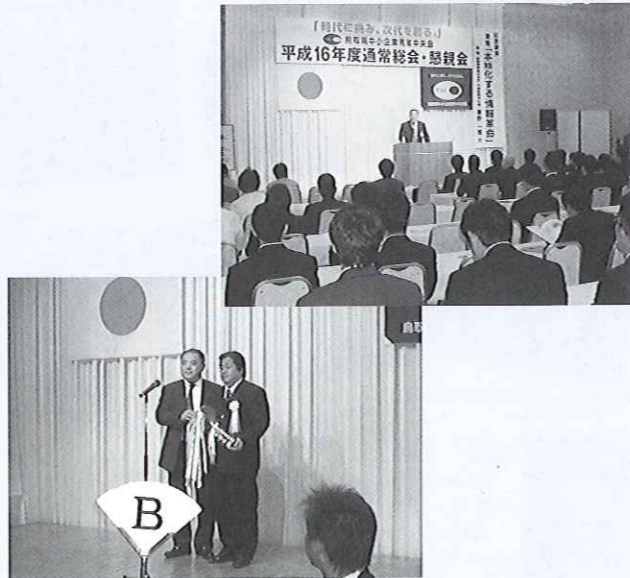
総会閉会后、中央会OBでもある、東亜青果代表取締役 秦野一憲OBを講師に迎え「本格化する情報革命」の演題で講演が行われ、「今までは根回しするやりかただったが、昨今は情報公開するやりかたに変わってきていて国際化した時代になって来た。」「情報には、金になる物とならない物があり、それを見極める事が大事」等、情報社会となって来た今、各会員が興味深く聞き入っていた。

講演終了後、東・中・西部会員及び、野坂康夫米子市長他来賓の方々をお招きし、懇親会が行われた。

懇親会では、早押しクイズが行われ、野坂市長、秦野OB、中央会県会長、直前会長他多数のグループ形式で盛大且つ、賑やかに行われ、笑いの渦が巻き起こっていた。なかでも、間違

えたら一気飲み罰ゲームが一層盛り上げたのではないだろうか？そして、罰ゲームで飲むスペシャルドリンク？を作る会員が一番楽しそうに見えたのは錯覚だったのでしょうか？

和やかな雰囲気の中時間も過ぎ、懇親会は無事終了し、二次会会場へと場所は移され、その後も楽しい一時が続いたのは言うまでもありません。



30th Anniversary

去・来・現

過去と未来を荷負い 現在に行動する

第30号 2004年8月

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 中本高夫 編集責任者 南 順三 印刷所 東京印刷株

ご挨拶



第30代会長 中本高夫

第30期会長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

この度、鳥取県西部中小企業青年中央会は、めでたく創立30周年を迎えることができました。これも、親会である鳥取県中小企業団体中央会をはじめとする皆様方のご支援や、卒会された諸先輩方の努力により培われてきた業績をもとに中央会精神が脈々と受け継がれてきた結果であると思えます。30年といえば親と子ほどの年齢差があります、当会も第二世代へ入ったというべき年齢ですが、様々な面において今一度、会自体がどうあるべきか、個々がどう考えて行動すべきかを見詰め直し、単なる交流の場だけではなく地域のリーダーたるべく勉強の場であり、それを生かす力を養う場として、30年という節目を捉えて行きたいと考えています。

そして今後、当会が永続的に発展していくためには、過去を継承し未来を考えて現在に行動しなければならぬという事を考える良い機会と考え、今年度のテーマを「去・来・現 過去と未来を荷負い現在に行動する」とし、スローガンを「個の自律から組織の自律へ共に進化しつづけるために」といたしました。会が発展するの人もあり、それを育てるの人もです。私たち現役員も、個々の団結力を今更そう深め組織の力を強化し様々な改革や目標に向かって実行できる

力を養い、地域のために、各企業のために、そして自分自身のために向上していくことを目的とした一年間でありたいと考えています。

会員の皆様、OBの皆様のご支援とご協力を頂きながら、微力ではありますが、一年間努力してまいります。どうぞよろしくお願いたします。

副会長抱負

メディアコミュニケーション・人づくり委員会担当



南 順三

皆さんこんにちは。30周年を迎えた西部青年中央会の副会長の命を受け、私は今、たいへん緊張した夏を迎えております。

周年記念事業、全日本トリアスロン皆生大会、県総会を終え、第30期も本格的にスタートいたしました。「去・来・現」～過去と未来を荷負い現在に行動する～のテーマの下、西部青年中央会に脈々と受け継がれてきた伝統を検証し、ひとつひとつを理解した上で、今の時代に必要な形に進化させるべく活動して行きたいと考えております。

担当させていただきますメディア・コミュニケーション委員会と人づくり委員会の委員長さんは、熱き思いを持たれた委員長です。各委員長が実力を十分発揮できるようサポートしてまいりますので、皆さん、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

国際交流・政治行政委員会担当



三嶋 雄司

30周年の記念すべき年度に役員に指名任命されました事は、たいへん光栄なことであり、これまでの諸先輩の過去の実績を検証し、未来のあるべき姿を創造しながら現在を活動していくつもりです。昨年度、皆様で作った青年中央会のテーマ（時代に挑み、次代を創る）を心に刻み、会の進化と私を含め会員個人の成長のために一年間努力する所存であります。

毎日暑い日々が続きますが会員各位におきましては健康管理に留意し、青年中央会活動が会員各企業の成長の助けになることを望みます。

エコチャレンジ2004・会員拡大特別委員会担当



松浦 光善

本年度のスローガン「去・来・現 過去と未来を荷負い現在に行動する」テーマ「個の自律から組織の自律へ共に進化しつづけるために」を自分なりに理解して、会の運営に全力で取り組んで行きたいと思っております。

今回「エコチャレンジ2004委員会」と「会員拡大特別委員会」の2つの新しい委員会を受け持ちますが各委員長が十分に力を発揮出来るよう、しっかりサポートして一年間頑張りますので宜しくお願い申し上げます。

経営・まちづくり委員会担当



若槻 聡

30周年記念式典、県総会も終わり、いよいよ本格的に本年度の始まりとなりました。30周年式典では改めて中央会のパワーを感じさせられると同時に同じ目標を持って一致団結し協力することのすばらしさを再確認いたしました。

中央会には長い歴史の中で築き上げられてきた伝統と実績があり、これをこれから先も会員皆で継承していく事は大切な事ですが、それと同時に時代の変化に伴い、その時代に合せてより良い方向へと変化していく事も必要になってきているようにも思っています。周りが急速に進歩発展しているときに、現状に立ち止まっていたり、後退していることになってしまいます。

この度、副会長になるにあたり、各会員が活力と情熱をもってそれぞれの役割を十分に果たし、これからの中央会を創っていくような運営の助けが出来ますよう微力を注ぎたいと思っております。「時代に挑み、次代を創る。」頑張りましょう。

総務委員会担当



福田 一哉

第30期という節目の年に、副会長という大役に推挙頂きましたご承認いただいたことは、自分自身にとって大変な誇りであり、また、その責任の大きさが日々増していくことへのプレッシャーとそれを跳ね除けようとする力が私の中で同居し、言い表しようのない緊張感を生み出し、身の引き締まる思いであります。

さて私は、29期総務委員長として一年間皆さんのお力を得ながら、なんとか30期につなげることができたと思っておりましたが、引き続き総務委員会担当の副会長ということで、少し戸惑っているのが現状であります。自分が委員長の時とは、ただ我武者羅に挑戦し続けて参りましたが、今後は、我武者羅に向かって行く委員長や委員会の皆さんを包み込み、守って行く包容力と力強さが必要と考えます。はたして私の中にそのようなものが存在するのか、今はまだ探す術さえありません。

しかし、副会長を拝命したからには、委員会の意見をよく理解し、四役会、役員会では有意義な議論を活発に行い、第30期中本丸が無事帰港できますよう、誠心誠意尽力していきたいと思っております。皆様のご協力を願いたします。

新入会員紹介

村岡誠一 有限会社 米子ニューアーバンホテル 代表取締役



昨年10月より米子の地で商売を始めさせていただいた関係上、地域・地元の一員として活動拠点を移す為、中部青年中央会より転入会の承認をいただき有り難うございます。中央会活動を通じて、本来なら知り合える機会のなかった皆さんと出会え、さまざまな勉強・経験を積ませていただける事に感謝しています。年齢的に卒会まで3年間しかありませんが、たく短く活動したいと考えています。未だ当地に不慣れも多く、とまどっていますので皆様のご指導を切にお願い申し上げます。

石川達也 SI美術工房 代表



7月より入会し、人づくり委員会に所属しています。入会にあたり、入会の動機でもある「自己の研鑽」をテーマに掲げ委員会、例会等を通して自分自身を一つでも二つでも高め、提言でも言われた、アクションリーダーに近づけるよう努力していこうと考えています。何分、若輩者ですので、今後ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願致します。

*詳しくは新年度会員名簿をご覧ください。

平成16年度新委員長抱負

メディア・コミュニケーション委員会

平新 武志

広報紙の編集・発行、ホームページの更新・維持管理などの中での役割はたくさんある委員会ですが、現状よりも一歩前へ進んだ形を目指した改革に取り組み、会員が見て気軽に利用できる仕組みづくりを模索しながら、様々な形での情報発信・収集に取り組みたいと考えます。

人づくり委員会

渡辺 一徳

世の中には3種類の人材がいると耳にしたことが有ります。所謂、「人財」「人材」「人罪」です。私は人づくりイコール人材育成だと考えていますが、リーダーシップを発揮でき、会員の資質向上に不可欠なのは「人材」ではなく「人財」の間人だと考えています。私はこの度、委員会テーマを「人財育成」としました。この委員会を通じて、これから財(たから)となる人を育てたい、と考えています。当然ながら、その為にはこの一年間、私自身も委員会メンバーと共に積極的に学び自らが「人財」にならなければならないと思います。「人財」こそが「人財」を育成できると思います。私たち委員会メンバーが「人財」となれば、会員の資質向上のみならず会社や家庭にも必ず成果をもたらすことが出来ると確信しております。

最後に中本会長のもと、南副会長、そして委員会メンバーよりご助力頂きながら、一生懸命頑張って行く所存です。何卒一年間、よろしくお願い致します。

経営委員会

植田 寿雄

私たち西部中小企業青年中央会の会員は、西部地域経済の一翼を担う存在ですが、一部の会員企業を除いてその実態は「小企業・零細企業」であり、経営者・経営幹部がひとつ能取りを誤ると取り返しのつかないことになる危険性があります。しかし、逆に考えれば、舵の取り次第で現状を打開し、会社を大きく発展させる可能性もあるはずで、異業種の集まりである私達は、言い換えればモノの見方の違う集団、異業種の知恵を持った集団です。その中には自分たちの業種の常識・モノの考え方だけでは突破できない壁を突き破るヒント・アイデアが必ずあると思います。

今年度の経営委員会は、視点を変えることによって、経営基盤を作り上げるきっかけを得ることを目指していこうと考えています。節目の年にあたり、実りのある委員会活動を行いたいと思いますので、ご協力をよろしくお願い致します。

まちづくり委員会

濱 勇二郎

1年間まちづくり委員会メンバーのご協力のもと全力で委員長職を遂行する決意でございます。どうぞ宜しくお願い致します。

今日、まだまだ地元経済は依然として低迷を続けています。我々企業が今何をしなければいけないのか今年度のスローガン「去・来・現」を荷負いどうしたら活力のある町が出来るのか提案できるようメンバー共々楽しく1年間勉強をさせて頂きます。

まちづくり委員会の重点目標は、「活力のある委員会」「常に創造的」「目的・意義を明確にする」です。

微力ではありますが、まちづくり委員長として頑張りたいと思います。どうか宜しくお願い致します。

会員拡大特別委員会

高橋 隆一

会員拡大という大変に重要な役割を担うことができ、光栄です。一年間という長そうでもわずかな時間を有効に使い、良い結果を出せるように最善の努力をしていきます。

委員の皆様には、情報協力をお願い致します。委員会メンバーと共に一年後の結果に向かってコツコツ頑張りますので宜しくお願い致します。

エコチャレンジ2004委員会

内田 康彦

今回、30周年の節目の年に委員長をやらせて頂くことは、西部青年中央会にはやっぱり縁があるのだと強く思います。

中本会長の方から電話があり、「来年委員長をやってくれ」と言われ、「何委員会ですか」と聞くと「エコチャレンジ2004委員会だ」と言われたので「なんじゃそりゃ」と思うと共に頭の中で環境とか難しいことが脳裏をかすめて「私に出来るのかな?」と思いました。

会長に聞いてみると、地球村民として何が出来るのかを考え、好きなようにやってくれと言われ、「よし、好きにしてみる」と思いましたが、よく考えてみると新しい委員会だしエコといってもテーマを絞り込んでやらなくてはならないと思いますし、「好きにしてみる」とは全部自分たちで決めていかなくてはならないので、新しい委員会は大変だと痛感しました。

テーマについては水・大気・ボランティアというふうにとりこみ、委員会の皆様と頑張りたいと思います。1年間よろしくお願致します。

国際交流委員会

野口 学

私は、国際交流委員会を今回で3回経験させて頂いています。この経験を生かし、会長より頂いた、「地域活動を通じた地域の国際化の推進(内なる国際交流)」という年間行動指針のことに頑張っていきたいと考えています。

まず、国際交流が行われる場所に着目し、国際交流を「地域内での国際交流」と「海外での国際交流」に分け、さらに地域内での国際交流を「個人レベルで行われるもの」と「地域社会で行われるもの」に分け、委員会活動をしていきます。

そこで今年度の委員会テーマを「文化の違う交流」一物事を多面的に見るとして、鳥取県でもその地理的特徴を生かし、環日本海諸国との窓口としての様々な取り組みがなされています。間違いナシに、今後一層重要になってくるものと、私は考えます。

今回は、周年の年でもあり、色々な事業があると思います。前向きに行動し、副会長のもと、副委員長、委員会の皆様と一緒に楽しく、有意義な活動になる様に頑張りますので、今年一年よろしくお願致します。

政治行政委員会

北口 智明

まず始めに一年間と言う短い期間で政治行政委員会として何が出来るかを考えました。そこで、テーマを「新しい米子の未来像をさぐる」我々が住む町で今何が問題視され、今後どのような発展が見込めるかを中心に委員会でも考えて行こうと決めました。

中本会長の研究テーマに「ウオッチ・ザ・協議会」とあり、今までは私も含め会員の中で政治と行政に対し、関心が薄いのが本音ではないだろうか。目的とは別で、まず各地域の協議会を傍聴し体感する事により違った視点で興味を持つと言う事が出来れば一つ成果ではないだろうか。分からない事を知ったかぶりにし、そのままにせず一つ一つ噛み砕き、理解し進めていく事を目的として行きたいです。

総務委員会

増井 幸一

30周年記念パーティーという大事業で第30期総務委員会がスタートしました。心もとない司会を委員会の皆さんに助けていただきました。ありがとうございました。これが終わると、99.8%終わった(?)と聞きますが、その言葉に感嘆されず、この勢いをそのままに年間を通して、活動していきたいと考えております。

中本会長のスローガン「去・来・現」の意味を理解し、他の委員会と協力し、意味ある委員会活動をしていきます。

総務委員会のテーマは、「過去と未来を考えた、会員の為の活動」とし、重点目標を以下としました。

- 1、失敗を恐れず、積極的に楽しむ。
- 2、ルーチン活動の参考書を作る。
- 3、女性会員拡大の為の考察をする。

これだけでは、解説が必要かと思いますが、活動の中でご理解いただけたらと思います。

達成感のあるものにしていきます。一年間よろしくお願致します。



～トライアスロンそれぞれの想い～



松岡 正高

皆生大会に出場してから、手帳に毎年「スローガン」、「決意」を書いています。

「継続は力なり」「チャンスはピンチ、ピンチはチャンス」「スタートラインに立つ」等をかかげ、ゴールの向こうに何かがあると思ってひたすら挑戦し続けて来て、何も見えませんでした。そこで得たものは、「〇〇し続ける」事の意味だったと思います。

この何年かは、自分が思ったように練習も出来ず、「出場を取り止めようか」、「レースの途中でリタイアしようか」と考える年が続きましたが、区切りの10回連続出場を目標に練習してきて、その結果、無事に完走する事が出来ました。

これもひとえに、委員会の皆さん、ボランティアの皆さんの応援と後押しがあったからだと思います。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。



宮崎 大介

今年も昨年に続き、親子で出場させて頂きました。昨年は父が水泳でリタイアという結果に終わってしまったので、父のリベンジをかけた、そして自分としても親子でゴールという大きな目標を掲げた大会でした。

普段は父とはあまり会話がありませんが、このトライアスロンの事になると、自然と向かい合い意見も言い合ってきました。普段から同じ様な練習を同じ位の時間積んできたので、「今年の親父はいける」とひそかに期待していました。

当日、親父の一番得意な水泳が海が大荒れで、今年も駄目かなと思った時もありました。ですが、そんな心配をよそに、親父は一日一歩確実にこなし、無事締

め切り5分前に帰ってきました。全日においてリミットぎりぎり通過でしたが、その堅実かつ確実に進んでいく姿は、感動を覚えました父の偉大さを改めて感じさせられました。

最後に、2年越しで親子ゴールを達成出来た事を、大会運営に携わってくださった方々に変な感謝いたします。本当にありがとうございました。



拝藤 博幸

今年の皆生トライアスロンは、30周年記念式典での社行会や2回日の出場という事もあり、まわりからの絶対完走と言う声にとてもプレッシャーを感じました。当日は、朝から風が強くなり、泳ぐのが苦手な私は、正直中止にならないかなと思っていました。しかし海岸での応援に勇気をもらいスタート地点に立ちました。今年の海

は予想外に荒れており、リタイアが頭をよぎりましたが、気合で泳ぎました。スイムで少々時間がかりバイクで取り戻そうと、初めから飛ばして行きました。大山の登り坂で調子が良く60人くらいの人を抜く事が出来ました。音もなく楽しく景色を見ながら走り終えました。ランに入り中央会の仲間の声援もあり、軽い足取りで走れました。しかし折り返し付近で足がすり、マッサージを受ける事になりました。その甲斐もありました。走った時何となくボランティアの人達に励まされ、歩く事なくゴールに向かうことが出来ました。そしてゴールでは、妻と仲間が待っていてくれて涙が込み上げました。みんなでゴールをして私にとって1年で一番長い1日が終わりました。(二日間寝こんだ事は言うまでもありません)スタッフとして携わった方々本当にありがとうございました。皆さんのおかげで走り抜く事が出来ました。ありがとうございました。

方々にも支えられているんだと思い知らされ、良いばかりでした。当日、自分の仕事を果たせなかったミスの数々を含めて大変多くのことを学ばせていただきました。

— ボランティア部 —

藤本 満梨子

なんとも言えない感動と充実感を味わうことができました。中海テレビの中継に関わるボランティアのサポートでは、文句も言わず、目をキラキラ輝かせ頑張る高校生達に、逆に励まされました。選手やボランティアへのインタビューに立ち会う中で、様々な人の長くても短い日々が表情から伝わり、胸が熱くなるのを覚えました。頑張った分だけ心の洗濯ができ、ボランティアに参加して良かったと心から思えた日でした。

大岡 康臣

私は米子市に来て3年目ということもあり、この歴史ある皆生トライアスロン大会に触れる機会がなく、ボランティアはもとより実際観るのも初めてでした。

今回ボランティアに初参加しての感想ですが、一般ボランティアさんの

知識の豊富さに驚かされ、多くを学ばせて頂きました。

私は午後よりフィニッシュ担当となり、そこでゴールした選手に「お帰りなさい、お疲れ様でした」と声をかける人、笑顔で選手を迎えタオルをかける人、様々…。そこでしか見る事の出来ない最高の声聞き、顔を見る事が出来たと思います。

最後に、今大会に携わった方々本当にありがとうございました。

— 団体ボランティア(持田AS) —

野田 明

私は、今回トライアスロンに初めて参加させて頂きましたが、スタートの時の光景、ASでのボランティアの皆様の一生涯に立上げから最後の撤収までの努力されている姿、そして選手の皆様とゴールに向かっつき進んでいく強さなど目に映るもの全て新鮮で感動的でした。

ボランティアというものに参加したことが無かった私にとって、トライアスロンボランティアはたくさんの事が勉強になりました。

今後中央会を通じ、多くの事を学ぶチャンスがあると思いますが、今回の感動と皆様の熱意を忘れる事なく、頑張りたいと思います。

第24回 全日本トライアスロン皆生大会

トライアスロン大会を終えて



マラソン部長
増井 幸一

皆様大変お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。2年間にわたりマラソン部長をさせていただきましたが、私にとって全てがこの部から始まったといってもよいくらいに思っています。

終わった後の肌で感じるビールと感動は、私にはもったいないくらいです。自分が自分で2年前とは違っているということが分かるまで勉強させていただきました。決してこの思いは忘れる事はないでしょう。

マラソン部員の皆さん、既に感じていらっしゃると思いますが、マラソン部は熱い思いを存分に発揮でき、「達成感・団結力」のある部です。こんなにいいメンバーの1員で、しかも部長をさせていただいたことを誇りに思います。新メンバーの皆さん、よく頑張ってくださいました。今年は余裕がなかったかも知れませんが、来年は又少し面白くなると思います。そして、3年ぶりのマラソン部完走おめでとうございました。前日の耐耐力は筋金入りでした。今回終わったばかりですが、来年は既に始まっています。これから一年の活動が、達成感につながるというもよいでしょう。是非、皆さんでまた感動しましょう。

最後になりましたが、中央会の皆さん、ポスター貼り、備品洗い等いろいろお手伝いいただきありがとうございました。OB他皆さん、本部AS運営終日ありがとうございました。また、来年もマラソン部をよろしくお願ひします。



ボランティア部長
畠山広幸

入会して6回目の皆生トライアスロンが終わりました。ユーモアと人間味のない、ロボットのような部長に部員のみなさんはよくついてきてくださいました。特に新入会員のみなさんはいろいろな面で大変だったろうと思います。心から感謝します。そしてお疲れさまでした。

今年ボランティア部はサポーター制度を取り入れて、中央会以外の方にもお手伝いをいただきました。開かれたボランティア部、誰でも入りやすいトライアスロンボランティアの扉を開けました。今後サポーターの輪を広げて年間を通じたネットワーク作りにも取り組みたいと思います。行政への提言もさることながら、中央会が社会と接点を持ちながら一般の方と共に地域活性化に取り組むことは意義深いと考えます。「人生へのエネルギー

ギーをそれぞれが与え合う場」が皆生トライアスロンならば、その大義を前進させてこそ中央会だと思います。「ボランティアが鉄人を支えるのなら、そのボランティアもまた鉄人なり」。肩上げとビールは気持ちよかったです！みなさんありがとう！



トライアスロン実行委員長
門脇 浩二

今年も、大会が無事事故もなく終わることが出来、会員の皆様には大変感謝しております。私も、微力ながらお手伝いさせていただきましたが、会員の皆様方の力強い応援、熱い汗の結晶が成功に結びついたものと思っております。

中本会長が終礼で言われました「オール中央会ですべての行事に取り組んでほしい！」というお言葉を、真摯に受け取らなければならないと思います。

これからは、会員数の増加は期待できそうもありません。反面、対外的な行事は多くなると思われま。こういう時こそ、会員の皆様が一になって大きな力に変えていってほしいと願っております。

最後に、畠山部長、増井部長、OBの皆様、そして会員の皆様、暑い一日お世話になり本当にありがとうございました。



団体ボランティア部長
桑垣英二

当初団体ボランティア部長のお話があった時には、30周年記念事業の準備と重なるためお断りしようかと思いましたが、他の会員も同じ状況に違いないと考え直し、お引き受けすることにしました。本格的な準備を始めたのは30周年記念事業終了後の大会3日前からという予想通りの慌ただしさで、伊藤OB会員、武海会員に協力を仰ぎ、何とか当日に間に合わせる事ができました。しかし、大会当日は限られた会員数で、受け持ちのポイントを担当しなければならなかったため、配置された殆どの会員は終日休む間もなくポイントに立ち続ける状態となり、終了時には全員疲労困憊といった様子でした。そうした状況の中、無事団体ボランティアの役目を果たす事ができたのは、偏に当日ご参加頂いた会員及び会員のご家族・ご友人、県青年中央会役員の皆様方の厚いご協力による賜物であったと考えています。この誌面を借りてご参加頂いた皆様方に心より感謝申し上げます。

ボランティアに参加して

— マラソン部 —

角田 敏宏

今回、初めてボランティア活動に参加してこの活動がいかに大変か身に染みて良く分かった気がします。事前の準備活動から始めて、前日作業、ミーティング？、そして当日ボランティア活動、こんなに仕事をしていたのかと本当に驚きました。

当日、AS担当という大任を任せられ、本心は不安で一杯でしたが、ボランティアの方々が皆さんベテランで良く分かった方が多く、大変救われた様な気がします。

参加選手が復路の時「ありがとうございます」という一言を聞いて、今まで味わった事のないような気持ちになりました。こんな気持ちになりながら、体はもううたたくたで腰が痛くて痛くて大変でしたが、すばらしい体験が出来たと思います。

<角田の孤独な独り言>

活動参加が決定してから、どこまで出来るか分からないけど一生懸命頑張ろうと思った矢先、ある日突然腰が「痛っ」・・・、何と「椎間板ヘル

ニア」&「坐骨神経痛」になってしまい、やる気は十分あるのですが、体がついて行かず大変皆さんに迷惑を掛けてしまった。初めてのボランティア参加だということにこんな事になったが、当日は出来る限り頑張ろうと思いい、腰が痛いのを忘れる位頑張った。がしかし、やっぱり痛い、どうしようもなく痛い、車の中ですこし横になりストレッチをしたり腰を揉んでみたりしたが・・・やっぱり痛い・・・。

最後の片付の時に、テントの横に土のう袋、砂の入った土のう袋、持ち運んだ。多分これがまずかった、駄目押しでさらに腰が、足が、痛かった・・・。

来年は治してがんばるぞ〜と。(治らないかも)この痛みは腰を壊した人じゃないと分からない・・・く〜つらい。誰か何とかして〜!

木下立己

今回、初めてマラソン部員として参加し、持田ASを担当しました。初参加の前回と違い周りを見る余裕が少しありました。ボランティアの方で、テントの後ろでひたすらコップを洗ったり後片付けをしている方がおられました。そのいぶし銀のような仕事振りに、見ていて感銘を受けました。又、後日、ASの土地を貸して下さった地権者の方にお礼を兼ねた挨拶に行きました。トライアスロンはボランティアだけでなく、こういった

創立30周年記念事業開催

通常総会

第30回平成16年度通常総会が米子市文化ホールで12時50分より行われた。30周年という大きな節目を迎え大役を終えられた浜田会長からは『この1年間を振り返ってみると自分自身が今持ちうる全ての力を注ぐことができた。皆様には感謝しています。新年度も中本新年度会長のもと、みんなの力を一致団結してがんばろう!』との挨拶があった。

決議事項に移り中本副会長の議事進行の下、第1号議案「平成15年度事業報告、並びに収支決算書承認の件」、第2号議案「平成16年度事業計画、並びに収支予算書(案)承認の件」が満場一致で可決された。つづいて長年の中央会活動における功績を称え門脇浩二直前会長に感謝状の授与が行われた。皆勤者(21名)・精勤者(17名)への会員表彰の後、委員会表彰が行われた。『どの委員会もすばらしく大変悩んだ』との浜田会長からは、最優秀委員会に後藤公平委員長率いる広報委員会、優秀委員会には山根宏典委員長率いる政治行政委員会との発表があり、壇上に上がったそれぞれの委員会メンバーに会場からは盛大な拍手が送られた。そして7月度新入会員へのバッジ授与(2名)が行われた後、無事閉会となった。



卒会式

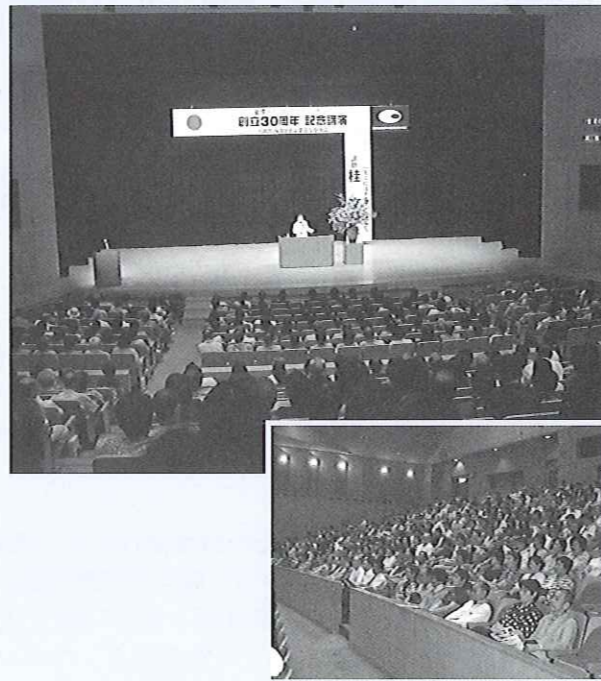
総会終了後、引き続き13時30分より平成15年度第29期卒会式が行われた。壇上のスクリーンにはご家族が選ばれた思い出の写真が映し出され、奥様からのコメントと共に卒会者が紹介された。その後、壇上に登壇された卒会者(11名)ひとりひとりに、浜田会長から卒会証書と記念品の授与が行われた。会員を代表して市位県会長が『我々を忘れることなく、これからも中

央会を注目していてください。』と送辞を述べられると、卒会者を代表して足立徹会員からは『とても感動しています。この壇上にいる皆の気持ちは一緒です。とても素晴らしい会でした。』と中央会への思いを述べられた。花束贈呈には奥様が登壇され、『長年の中央会活動ご苦労様でした』と声をかけられると照れくさそうな会員の姿も見られ、現役会員で作ったアーチをくぐり退場される姿になごり惜しむ声と共に盛大な拍手が送られた。



記念講演

30周年記念講演は、米子市文化ホールにおいて、現在様々な舞台・分野で活躍されている落語家の桂文珍氏を招き「笑うにはチカラがいる」というテーマで行われた。会場は平日にもかかわらず、同氏の話を通じて多くの方が集まった。白のジャケット・白のパンツ姿の同氏が登場すると、会場は大きな拍手に包まれ講演はスタート。「中央会とは不思議な団体で、中央なのに西部があったり、東部があったり…」独特の喋り口調でアツという間に会場と一体化。私生活や国際情勢、経済環境も織り交ぜ、いつしか会場内は笑いの渦に巻き込まれた。「人と人との安定の基本は、同じ事を笑える楽しみにある。幸せの価値観の中に“笑いを共有化する”という価値観も持ってほしい。」と最後に締め括った。その1つ1つに「笑い」を職業として、今まで築き上げた重みを感じ、私達が忘れかけている人が生きていく上での「笑い」の持つ重要性を、今までと違う角度で考えさせられるとても価値ある講演であった。



記念式典

会場を米子コンベンションセンターに移し、来賓、OB、現会員を含め約230名にて、記念式典が挙行された。

中島副会長の開会宣言に始まり、各方面からのご挨拶をいただいた後、中央会OB会を代表して、中村OB会長、永年の功績を讃え、木山OBに感謝状が授与された。

つづいて、この日のために制作部が作成した、映像が場内に流れ、オピニオンリーダーからアクションリーダーへの脱皮が宣言され、提言部へとつなぎ、未来の中央会がどうあるべきか、アクションリーダーとなるために個々の会員がどう考えてゆくべきかの方向性が示された。



平山副知事



加藤団体中央会会長



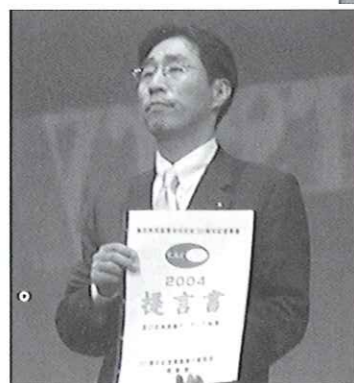
永瀬初代会長



中村OB会長



木山OB会事務局長



記念パーティー

記念パーティーは「大山送迎太鼓保存会」の迫力ある和太鼓の音とともに開場となった。

第30期増井総務委員長により開会の挨拶がなされ記念パーティーに突入。

まず、第30期中本会長の挨拶。30年間の中央会の歴史を継承していくことの大切さを語られるとともに抱負を述べられた。今年度「中本丸」の航海に期待に胸が膨らみます。

続きまして、中村昌哲OB会長より祝辞の中でOBは現役会員の「緑の下力持ち」であるとのありがたいお言葉をいただき卒業しても継承される組織の偉大さに感服。

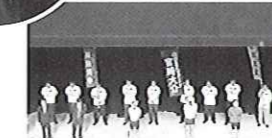
ご来賓紹介、鏡開きのあと、なんと！昼間公演をいただいた「桂文珍師匠」が飛び入り特別参加。昼間の余韻も残る中、会場は再び笑いの渦に巻かれた。

さて、今年もやってきました皆生トライアスロン！中央会トライアスロンといえばこれ抜きでは始まらない中島太郎応援団長による恒例の壮行会。

続いて、TSCバンドによる演奏。「青春」を題材にしたメドレーでは懐かしの曲に一瞬時代がトリップ



トライアスロン壮行会



TSCバンド



野坂米子市長



30周年事業を終えて

管理部 部長 堀江 則夫
皆様、お疲れさまでした！思い起こせば私共管理部は、ゴルフコンペに始まりC、オークション・協賛広告と会員・OBの皆様方より絶大なご支援・ご協力を賜りました。どんな感謝の言葉を以てしても意を尽くしきれない程です。

皆様お一人お一人のお陰があってこそ、この大イベントが成し遂げられたといっても過言ではありません。

本当にお疲れさまでした。そして心中より深く深く御礼を申し上げます。ありがとうございました！！

運営部 部長 野口 学
先ずもって、周年事業に携わった皆さん、大変お疲れ様でした。忘れもしませんが、1月26日に食品会館で初めての周年部会がありました。その場所で「野口さんが運営部のリーダーだけね」と言われ、「そげ」と簡単には答えたものの、実際には大変な事で当日の会場設営・運営一切を仕切るのが役割でした。

周年事業を無事終える事が出来たのも、運営部のメンバー・当日お世話になった会員の方などの協力があってこそだと思います。本当に有難うございました。

広報部 部長 堀田 一
どのように部会をまとめたらよいか不安なスタートでしたが、伊藤副会長、榎村さんの協力と、才能あふれるメンバーに恵まれ無事30周年を終えることが出来ました。

いろいろとやりたいようにさせてくださった浜田会長、水委員長、北口副委員長に心から感謝します。

私には、とても楽しい、そして心に残る30周年でした。

古きよき時代を思い起こした。そうしているうちに、あっ！という間に2時間経過、野坂米子市長の3本締めによりパーティーは無事終了、おつかれさまでした。

協力していただいたすべての方に感謝します、ありがとうございました。

制作部 部長 後藤 公平
「一過性のビデオじゃないんだよ！」目次OBの言葉。「適当・ツギハギ・おもしろおかしく」甘い考えが吹き飛ぶ。待っていたのは「構成表作成・理由付け・事業内容の検証」という至極当然な作業。週2回の部会開催決定。「それでも足りない」「ついてきてもらえるのか」というジレンマの中、皆で悩んで、知恵を絞った。費やした時間の濃縮されたものがあのビデオ。感無量！関係各位、メンバーに感謝。さあ、あとは記念誌作製だ！

提言部 部長 武海 章
まず私の感想を述べさせて頂く前に第29期浜田会長、そして水実行委員長をはじめ周年事業に携わったすべての方々に感謝を申し上げます。あのような提言の機会を設けて頂き、本当にありがとうございました。

そして、運営部の皆様。あなた方の努力のお陰で私たち提言部は、当日安心してステージに立つことが出来ました。重ねて感謝いたします。

提言についてはこれからがスタートであり、本番です。会員の皆様から頂戴した貴重なご意見を無駄には致しません。皆様もこれから、提言の取り扱われ方に注目をしてください。そして、提言もしくは会の運営に対してご意見があればどしどし積極的に発言して頂きたいのです。そのことをお願い申し上げます。私の感想と致します。